

長期
ビジョン

いわて県民計画 (2019~2028)

東日本大震災津波の経験に基づき、
引き続き復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて



岩手県

7

けんこう 健幸づくりプロジェクト

健幸：個々人が健康かつ生きがいを持ち、安全・安心で豊かな生活を営むことができること。
(Smart Wellness City 首長研究会ホームページ(<http://www.swc.jp/rinen/>)より引用)

(1) プロジェクトのねらい

県立病院・大学等で保有する医療データや健診機関で保有する健診データ等を生かし、健康・医療・介護データを連結するビッグデータの連携基盤を構築し、その活用を通じて、健康寿命が長くいきいきと暮らすことのできる社会の実現を目指します。

(2) 課題と展望

- ア 県民意識調査において、幸福かどうか判断する際に「健康状況」を重視すると回答した人の割合が一番高くなっています。
- イ 平成28年(2016年)における、国民生活基礎調査結果(大規模調査)の結果を基に算出した岩手県健康寿命(日常生活に制限のない期間)は、男性71.85年(全国72.14年)、女性74.46年(全国74.79年)と全国平均より短くなっています。
- ウ 全国有数の規模を誇る県立病院ネットワークを有するとともに、健診データが県内健診機関に集約的に保有されているなど、全国の中でも医療や健診データの利活用において、先導的に取組を進めることができる環境にあります。

(3) 内容

① 個別疾患を抽出するシステムの構築

- ア 予防・健康づくりを推進するため、脳卒中など個別疾患に関するデータを抽出するシステムを構築
- イ 脳卒中などの発症予防、再発予防、後遺症対策への情報利用の促進、他疾患へのシステム応用

② 健康・医療・介護データを連結する連携基盤の構築

- ア 全国保健医療情報ネットワークの動きと連動し、岩手県版医療ビッグデータ連携基盤を構築
- イ 健康・医療・介護サービスがつながり、連携することにより、健康寿命の延伸に向けた医療・介護等の分析を実施

ウ 電子カルテや各種レセプト、健診結果等のデータに加え、ウェアラブル端末^{*123}からのバイタルサインや行動記録、自己登録情報（食事メニュー等）を集約したビッグデータを人工知能（AI）を用いて解析



用語解説

***123 ウェアラブル端末**

着用できるコンピュータ。衣服状や腕時計状などで身につけたまま利用できるもの。

③ ビッグデータを活用した健康対策の推進

ア 個人の健康状態や服薬履歴等を本人・家族・保険者等が把握し、日常生活の改善や健康経営の実践などを行うことにより、健康づくりを推進

イ 医療・介護サービスの組み合わせや利用量から「どれくらい生きたか」だけでなく、「どれくらい元気で暮らせたか」を治療効果として確認し、有効な治療や保健指導などを実施

(4) 工程表

取組内容	短期的 (2019～2022)	中期的 (2023～2026)	長期的 (2027～)
個別疾患を抽出するシステムの構築	脳卒中を抽出するシステムを構築	がんや心疾患など本県の健康課題を解決する疾病にシステムを応用	
健康・医療・介護データを連結する連携基盤の構築	全国保健医療情報ネットワークの動きと連動し、岩手県版医療ビッグデータ連携基盤を構築		
ビッグデータを活用した健康対策の推進	発症予防、再発予防、後遺症対策等へシステムを活用	岩手県版医療ビッグデータ基盤を活用した健康対策の推進	

(5) プロジェクトで目指す姿

ア 県民が生涯にわたり自身のデータを集積・閲覧・活用できる岩手県版パーソナルヘルスレコードサービスが提供され、医療機関や介護施設、スポーツジム等の健康増進に関わる施設間で、希望した県民の健康に関する情報活用が進むことにより、県内各地域で必要に応じた治療やケアを受けることができ、健康寿命が延伸し元気な暮らしを続けています。

イ 県・市町村・保険者では、集約したビッグデータを活用し、各地域や事業所の課題に対応した健康対策を効果的に展開しています。また、企業等では、新たな情報通信技術（ICT）サービスの提供や機器・材料・薬品の新規開発等により新たな産業が創出され、地域が活性化しています。

